

会 議 録

- 1 会議名
令和元年度 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会合同会議
- 2 議題（全て公開）
 - (1) 専門部会の取組報告
 - (2) 令和2年度以降の在宅医療・介護連携推進協議会の取組方針について
 - (3) その他
- 3 開催日時
令和2年2月15日（土）午後4時から
- 4 開催場所
雁木通りプラザ
- 5 傍聴人の数
0人
- 6 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）
 - ・ 委 員：早津正文（会長）、藤本智恵（副会長）、揚石義夫、倉茂了、青山隆一、相澤由美子、浅野広美、宮川玲、筑山芳江、石田浩二、大平真由美、石田さとみ、渡辺久枝、飯塚俊子、星野ハツ子、植木光代、早津敏彦、清水知美、山田玲子、横田麻理子、江口義幸、川田智美
 - ・ 事務局：大山仁（上越市健康福祉部長）
すこやかなくらし包括支援センター
南雲一弘、柳澤明美、高宮輝行、佐藤麻由子、長澤由美、坪井裕章、岩井美晴
高齢者支援課
西山春三、小松浩之、廣瀬志保
妙高市福祉介護課
岡田雅美、松原久子、保坂あかね、長谷川美代、岡田尚子、原田造成

7 発言の内容（要旨）

開会

あいさつ 大山健康福祉部長

議題

(1) 専門部会の取組報告

- ・資料「平成29年度～令和元年度 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会 専門部会の取組まとめ」及びパワーポイントに沿って各部会より報告

① 入退院時支援部会

植木部会長：説明

質疑なし

② 多職種連携推進・研修部会

清水部会長：説明

揚石委員：今後の展望というところで、多職種連携の研修会を続けていく必要があるというお話でしたが、具体的にどのくらいの規模で、どこを対象を絞るのか、ご意見があれば教えてください。

清水部会長：部会の中では、そこまでの研修会のイメージというのは、検討に至っていませんでした。先ほどの入退院時支援部会の報告にもありましたが、職能団体によっては研修会を繰り返すことでご自分達の職能としての連携方法を考えていくという職能団体もありましたし、地域連携連絡票の周知をまず広めていきたいというような職能団体の方もいらっしゃいました。ただ、それぞれの職能だけで研修するのではなく、支援を必要とする方の、その人らしい生活を作っていく支援をより効果的に行うためには、多職種がそれぞれの職域を越えて研修したり、連携できるような、スキルアップですとか信頼関係づくりが必要だと思います。包括の単位でやるのがいいのか、もう少し大きな規模でやるのがいいのかということも含め、他の方々とも意見交換しながら考えて参りたいと思います。

③ ICT連携部会

横田部会長：資料に基づいて説明

青山委員：次年度はICT連携部会がなくなり、在宅医療推進センターに委ねるということについてどう考えていますか。

揚石委員：この部会の発表が終わった後に、早津会長の方から皆さんに意見として諮っていただければと思います。

早津会長 : 3割方の人がMCネットを入れているのに使わないのは、必要ないからだとか、ファックスや電話でいいと思っているからなのですか。また、85人が連携していきたい事業所として「医師」と回答していますが、これはMCネットに未加入の医院が多いということですか。

横田部会長 : 加入している医師と、加入していても活用していない医師が多いということです。

早津会長 : 訪問診療でも、しない医師にしろと言うのか、している医師にもっと頑張れというのか悩む部分があります。MCネットの活用も、現実的には「もっと頑張れ」というところかとも思います。

④普及啓発部会

川田副会長 : 資料に基づいて説明

飯塚委員 : 今後、年代や地域に合わせてスライドのバリエーションを作っていくたいとのことでしたが、具体的なイメージを教えてください。

川田副会長 : 現在のスライドには在宅サービスを一通り記載してありますが、地域によっては使えないサービスも含まれている。地域包括支援センターの担当エリア単位などで、使えるサービスに絞り込んだスライドの作成を検討しています。年代としては、アンケートにあったように、市民向け講座では60代以上の参加者が多いが、親を介護する世代、働き盛り世代は、なかなか地域包括支援センターのことを知らない方もたくさんいらっしゃると思います。そうした若い世代に向けたシナリオを作成し、健診会場でスライドを流すという意見が出ています。

揚石委員 : 困った時は、地域包括支援センターに連絡したり、ご家族・ご本人にも紹介していますが、全ての医師が地域包括支援センターを一元的な相談窓口として認識はしていないと思うので、医師向けの普及啓発が必要だと思っています。市民向けの啓発は、今後も続けていかなくてはいけないことだと思います。どこの地域でも、在宅医療・介護連携推進事業の中では、市民向けの普及啓発というのは必ずあると思うので、例えば同規模の市町村などに行ってみてくるとか、他のところとの交流も、皆さんの力になって、やる気も出てくるのではないかと思います。

早津会長 : それでは、ただいま四つの部会から、この3年間の取組につ

いてのまとめや今後の課題について報告がありました。ここで委員の皆様から承認をいただきたいと思います。承認をいただける委員はその場で拍手をお願いいたします。

(拍手)

早津会長 : それでは、全員一致ということで、承認いたします。四つの部会は、それぞれの課題について協議、実践を通して3年目を迎え、部会員一人ひとりに達成感があるとともに、次の課題へと繋がったことと思います。今後も引き続きできる限り本人が望む生活を、住み慣れた地域で継続していくためには、地域連携連絡票やMCネットを上越地域の共通ツールとした取組を推進することが重要と考えます。ついては、当協議会として、3年間の活動から得られた評価と取り組むべき点について、行政や各職能団体へ「提言(案)」として提出したいと思います。部会を代表して、多職種連携推進・研修部会の清水部会長からお願いしたいと思います。

清水部会長 : 資料に基づいて「提言(案)」について、説明

早津会長 : それでは「提言(案)」について、在宅医療・介護連携推進協議会として行政や各職能団体へこの「提言(案)」を提出して良いものか採決を取らせていただきます。承認いただける委員は、その場で拍手をお願いいたします。

(拍手)

早津会長 : 皆さん拍手をいただいたので全員一致ということで、承認いたします。案のところは二重線を引いて、削除してください。この提言については承認いただきましたので、在宅医療・介護連携推進協議会として、後日、行政や各職能団体へ提出させていただきます。委員の皆様からは、各所属へご報告いただき、上越地域の在宅医療・介護連携がより一層発展するよう、ご協力いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(2) 令和2年度以降の在宅医療・介護連携推進協議会の取組方針(案)について

① 上越地域が目指す在宅医療・介護連携のビジョンと専門部会の取組案について

佐藤保健師長 : 資料に基づいて説明

早津会長 : ただいま事務局から、令和2年同以降の取組方針案並びに体制案について説明を受けました。ここで先ほどの青山先生の質問ですがICT部会の取組が、主になんぎネットの部分になるの

で、在宅医療推進センターで取り組むというようになりそうなのですが、青山先生、ご質問、ご意見どうぞ。

青山委員 : 昨年こういう体制になるということで、説明を受けたと思うのですが、その時に、ここまで4部会で進めてきたことをより一層進めていただきたいと提言いたしました。ICT部会が今まで進めてきたことを、もっと進められるような体制にさせていただけるのなら、問題ないと思っております。ただ、ICT部会が今までのメンバーの方が数名で進めてきたと思うのですが、これからその推進センターでしょうか、その事務局の方2人だけで進めていくのかそれともまたそこに誰か協力者がいて進めていくのか、その辺はどうされるのか質問させていただきました。

揚石委員 : 在宅医療推進センターのセンター長もやっておりますので、私の方から少し説明させてください。この3年間のICT専門部会は部会メンバーのスキルが非常に高く、色々な提案の中で活動を進めてきました。ICT部会には、推進センターの職員が毎回、会議に出席させていただき、主に医師会館の方でMCネット塾ですとか、活用塾をさせていただいていました。ほぼ、部会のメンバーとして、推進センターの二名のコーディネーターも仕事をやってきております。来年度についても、必要に応じてこの3年間頑張ってやっていた部会のメンバーからのご協力をいただきながら、進めていきたいと思っておりますし、部会の方々には、お願いをしてあります。

青山委員 : 分かりました。ありがとうございます。

早津会長 : その他、皆さんご意見質問はありますでしょうか。

青山委員 : 対人援助スキルアップ部会というものが新しくなったと思うのですが、どうもこの言葉の意味がよく分かりません。支援を必要とする人のスキルアップを図るための部会というふうに考えてよろしいのでしょうか。私の認識では、援助を受ける人にうまく話をつけるという意図があったのですが、違ったのでしょうか。医者は、上から目線だったりする、そういう勉強会かなと思って聞いていたのですが、いかがでしょうか。

柳澤副所長 : 私どもは対象の方と接する時、その人のその人らしい生活を支援していく多職種の一人一人になるかと思えます。私どもや本日参加されている方もそうなのですが、相手に関わる一人一人が、どういうふうにその方に接して、その方の希望を

どう酌み取って、その人らしい生活を送っていただくのかというところに焦点を当てながら、進めていく予定であります。

揚石委員 : 名前を変えろと言っているわけでもないのかもしれませんが、対人援助職という言葉があるので、ここではそう使っています。やはり対人援助職として、すべてに共通するスキルとして、人材育成の一番の基礎になるところを固めていくことは、今だからこそ、やっていくべきではないかという認識があったのだと思います。

青山委員 : 対人援助職と言ってもらえると分かりました。

石田委員 : 対人援助スキルアップ部会について、非常に取組が難しい部会かと思うのですが、部会のメンバーを見させていただくと、どうも意図しているのは相談援助職。要はその人らしい生活を生む現場の介護スタッフだとか医療スタッフはその範疇にまだ入れないということでしょうか。いくらケアマネや包括がそういうことをやったって、実際実践するわけではありません。そう考えたときに、とりあえず年度当初は相談援助職、医師も含めて、そこをターゲットとして取組をされるのか、それとも最初から、現場スタッフも意識するのか。仮に現場スタッフも意識するのであれば、この部会のメンバーはちょっと弱いと思います。正直申しまして、老人福祉協議会、通所介護施設職員やヘルパーの職員もいますが、組織として、通所介護の事業者が全部入っているわけでもないですし、ヘルパーはヘルパー協会さんの方が力はあるし、そういうことを考えると、うちの協議会から入っても、現場の話はちょっとできないかなと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

柳澤副所長 : こちらの部会の委員につきましては、医療職あるいは現場の方々を入れながら、1年目はまず、共通意識を持つところから始まると思うのですが、また話し合っていく中で、必要な職能団体にはお声掛けさせていただきながら進んでいきたいと思っております。その際は皆様からご協力をお願いしたいと思います。

石田委員 : 各部会に主任介護支援専門員が配属されています。これから中核となって活躍してもらおう方々だと思いますが、主任介護支援専門員の横の繋がりや仕掛けはあるものですか。要は、1個人の意見としてこういうところへ来てもらっても、正直言

ってありがたくない。当然上越市内の主任介護支援専門員の総意となるような仕掛けがないと、一部の人たちだけで終わってしまいます。主任ケアマネの会みたいなものはあるのですか。

佐藤保健師長：主任ケアマネの会は、今現在、上越市では発足していません。今後、そういったネットワーク会議を作っていこうという動きが、地域包括支援センターの主導で始まったところなんです。これについては、今日、居宅介護支援事業推進協議会の石田会長にもおいでいただいておりますが、協議会の方と相談をしながら、主任ケアマネジャーのネットワークづくりを推進していただき、主任ケアマネジャー達が主体的にこの取組に参画したり、地域づくりに関わっていただくように、働きかけていきたいと考えています。

早津会長：それでは説明のありました、令和2年度以降の取組方針案について、採決を取らせていただきます。この取組方針案について承認いただける委員は、拍手をお願いいたします。

早津会長：(拍手)それでは全員一致ということで承認いたします。継続する課題や新たな課題に向けた四つの部会が立ち上がり、両地域が目指すビジョンに向けて様々な取り組みを行っていきますので、ぜひここに参加の各職能団体の協力をお願いいたします。

8 問合せ先

健康福祉部すこやかなくらし包括支援センター支援係

TEL：025-526-5623（内線120）

E-mail：sukoyaka@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。